

2025 年度（令和7年度）学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 25	福山市立一ツ橋中学校
最終更新日		2026年（令和8年）2月20日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「対話する力」「自己・他者理解力」「自己効力感」
児童・生徒に活躍の場を提供し、目標達成に向けて着実に取組が進められている。 地域の学校として、現状や課題を共有しながら、活力ある学校づくりを共に進めたい。	中学校では不登校生徒が多く、小学校では登校渋りが微増傾向にある。 探究的な学習について校区で推進しており、その中で、児童・生徒が自ら問いを立て探究する姿が増えてきている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。
		中学校区として統一した取組等	小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。 探究的な学習の充実に向け、小中で連携して、9年間のカリキュラムを構想するとともに、「子ども主体の課題設定」「机からの脱却」（外部連携を含む）を視点にした取組を行う。

III 自 校

ミッション		育成する 資質・能力	学びに向かう力		課題発見・解決力	対話する力
希望をもつ生徒を育む しっかり学び、明るい未来を抱く生徒を育む			めざす 子ども像	中期	・自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決をよりよい方法を選択し取り組もうとしている。 ・未知の状況にも対応しようとする。	・個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付こうとし、自分の考えようとしている。
学校教育目標		後期		・自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かそうとしている。	・事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組んでいる ・未知の状況にも対応できる。	・個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自己の考えを広げ深めることができる。
自ら輝く　ともに輝く						
現　　状						
＜生徒＞ 学校の授業に積極的に参加している 95.2%/スポーツをすることが好きと回答 78%/朝食を必ず食べている 81%/学校に行くのは楽しい 88.5% 1年では、防災教育、いじめ未然防止教育を柱に探究学習をおこなった。2年ではホロコースト記念館、リトアニア大使館とのつながりを活かした平和学習をしてきた。 不登校生徒が全校生徒の 7.7%（前年度 7.8%）不登校生徒については改善している生徒もいるが、新たな不登校生徒もいる。理由は様々である。 ＜授業＞ 総合的な学習の時間において、主体的・対話的な学びにつながる教材を開発した。地域と連携した本物に触れる学習を設定し、主体的に行動できた。地域と連携した学びが持続可能となるようカリキュラムマネジメントを行った。3年間を見通した系統性があり探究的な教育内容を計画している。 教科の学習において学力の定着の課題が残る。目標設定し改善に努めている。						
研究	テーマ	確かな学力を身に付けるための授業づくり				
	内容等	・ 確かな学力を身に付けるため、基礎的・基本的な知識及び技能の定着、また学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などを含めた幅広い学力を育む。 ・ 探究的な学習でのこれまでの校区研究の経験を活かし、小・中学校 9 年間の見通しをもった授業づくりをする。				
めざす授業の姿		【国語】読解力（文章から読み解く）、表現力（自分の考え、思いを相手に伝える）を高める授業 【数学】数と式の領域の力を高める授業 ※今年度は、特に、国語、数学に焦点をあてる				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立一ツ橋中学校								
3	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	日常的に問題発見・問題解決ができる、探究が自然にできる力を育む	★	継続	・生徒の主体的・対話的な学びにつながる授業づくりを行う	・本物に触れ、探究につながるカリキュラムマネジメントを行う ・教材研究を通して、子どもへの理解、教材への理解を深める	・学びに関する生徒満足度 80% ・授業を年1回以上公開する ・国語、数学では設定した評価問題の正答率について学年末に県平均を超える。	□学校の授業は分かりやすい 89% □数学の評価問題の正答率 1年生 26.5% (市平均 33.8) 2年生 62.5% (市平均 67.8) ・校内研修実施	3	3	・学習が苦手な生徒への支援を行う。 ・校内研修の充実や校外研修への積極的な参加等、教員が教材の探究をしていく。 ・学年、クラスの中で学び合いの機会を設け、定着させる。	□学校の授業は分かりやすい 91% □数学の評価問題の正答率 (県平均 55.9%) 1年生 72.9% 2年生 85.0% 3年生 98.3% ◎授業に対する満足度は高い。特定の問題は正答率を高くすることができた。	3	3	3	・個に着目して誤答分析し、その結果を踏まえ教材研究をしていく。 ・校内研修の充実や校外研修への積極的な参加等、教員が教材の探究をしていく。
2	SDGs, Well-being の理念の実現を目指す 自己効力感を育む		継続	・地域と連携した総合的な学習の時間、生徒会活動、学校行事等の教育活動を整える ・生徒の意思決定能力を高める	・生徒が主体となる教育活動を実施する ・生徒が企画運営する地域貢献活動を充実させる ・生徒が「自分で決める」機会に教職員が寄り添う	・「仲間と一緒に活動するのは楽しい」と感じる生徒 90% ・「地域のために何かしている」生徒 80% ・不登校生徒を前年度以下	□仲間と一緒に活動するのは楽しい 93% □地域のために何かしている 46%	3	3	・継続して生徒が主体的となる活動の場を増やす。 ・生徒が企画運営する地域貢献活動を更に発展させる。	□仲間と一緒に活動するのは楽しい 96% □地域のために何かしている 63% ◎授業・ボランティア・行事を通して地域と密接にかかわることができた。	3	3	3	・継続して生徒が主体的となる活動の場を充実。 ・生徒が企画運営をする地域貢献活動を更に充実。
2	生涯にわたって運動に親しむ資質能力を育む 食に関する適切な判断力を育む		継続	・運動の楽しさを実感し、健康を大切にする態度を育む ・食事の重要性、心身の健康の意識を高める	・授業、体育的行事、部活動等で運動の楽しさを感じる機会をもつ ・生徒が食育について考える機会をもつ	・運動に関する調査項目での肯定的回答を 80% ・食育に関する調査項目での肯定的回答を 80%	□運動に関する調査項目で運動やスポーツをすることが好きと回答 89% □朝食を必ず食べていると回答 90%	3	3	・体育の授業で体幹トレーニング、柔軟運動などを行い、運動をする機会を与える。 ・保健の授業や委員会活動を通して重要性を伝える。	□運動に関する調査項目で運動やスポーツをすることが好きと回答 80% □朝食を必ず食べていると回答 90% ◎運動や食について探究活動が十分でない。	3	3	3	・教材研究により、体育の授業の中で運動の楽しさ、スポーツの楽しさに気付かせる。 ・保健の授業や委員会活動で探究する機会を持つ。
2	持ち味を生かし、生徒と共に挑戦する教職員の育成		継続	・学校課題に対して当事者意識を持ち、全教職員集団の知恵と意欲を持ち寄って様々な事案に取り組む	・主任、主事、担当の責任を果たす ・定時退校の確実な実施と確認	・教職員アンケート「自分の個性が認められている」という実感がある 80% ・時間外勤務 45 時間以内 90%	□教職員肯定的評価 73.3%昨年度末 70%。 □時間外勤務 45 時間以内の達成率 66%始業準備などがあるため時間外勤務者が多かった。徐々に減少している。	2	2	・教職員の持ち味を生かした教育活動を支援する。 ・業務について見通しをもって計画的に進めていく。	□教職員の肯定的評価 92.3% □時間外勤務 45 時間以内の役割 53% 学期末事務、進路事務等で時間外が増えた。 ◎職場の関係は醸成されつつあるが、業務が計画的に進められていないところがある。	3	3	3	・業務の分担を明確に位置づけ、カリキュラムマネジメントを行っていく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。